

会 議 要 旨

(1 / 4)

会議の名称	第4回 川越市国際化基本計画審議会
開催日時	平成27年10月23日(金) 午後6時 開会 ・ 午後9時 閉会
開催場所	川越市役所第一委員会室
議長(委員長・会長)氏名	山田 あき子
出席者(委員)氏名(人数)	清水 俊男、ベアリ・ドウエル、筒井 哲朗、藤森 貞花、 王 一 (5人)
欠席者(委員)氏名(人数)	鐸木 昌之、亀田 道明、焦 雁、エンフバートル・アミナ (4人)
事務局職員職氏名	中里国際文化交流課長、 檜田国際文化交流課副課長
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第四次川越市国際化基本計画素案について (2) その他 4 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回川越市国際化基本計画審議会 次第 ・ 第四次川越市国際化基本計画 素案 【資料4-1】 ・ 「第四次川越市国際化基本計画原案」に対する意見募集(案)

議 事 の 経 過

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 第四次川越市国際化基本計画素案について

事務局説明後、意見及び質疑。主なものは次のとおり。

3- (1) 国際交流センターの充実について

- 多文化共生・国際交流に係わるイベント等とは、具体的にはどのようなものを今までしてきたか。
⇒ボランティア団体が国際交流のイベントを毎年実施している。今年は留学生を呼んで、川越に住んでいて思ったことについてディスカッションを行った。
- 交流機会の充実について、誰が充実させるのかという主体がはっきりしていない。川越市としては何をやるということも明確でない。運営がボランティア任せになっているように見える。
- 他市のイベントは川越市の（あるいは本市の）国際交流センターの中で行うものより大規模であり、多種多様な国の人が集まる。国際交流というのは多くの国の人々が集まり、外国籍の人だけでなく日本人も楽しめるものだと思う。ボランティアに頼らず、行政が進んで受け皿になり、積極的に動くべきだ。
- 公民館や関係する市民団体などのイベントについて尋ねられたときも、対応できるようにするべきである。団体を登録する制度を活かして連携してみてはどうか。
⇒イベントは当然センター以外でも開催されているが、イベントの情報を市で把握できる形にしていきたい。そのような情報を発信することが、センターの役割の一つと考える。
 - ・国際交流センターは情報発信できているという感じがせず、ただの箱でしかない。チラシを増やしたり、国際交流に長けた職員を配置したりと、建物の中から活性化させるようにするのが良いのでは。
- イベントの広告は市が出してくれるのか。
⇒国際貢献事業補助金の制度により、PRのための印刷代を補助することができる。
 - ・市が主体となって広報することはないのか。市のサポートの有無によって

議 事 の 経 過

主催側の広告の仕方が変わることもある。イベントを個人が周知していくよりも、市のサポートがあれば安心感を与えることができ、日本人の方も参加しやすくなると思う。

- ・先述の登録制度を活かし、登録団体であれば情報を広報に載せてもらう、という形もいいのでは。
- 国際化とは、この会議のようにさまざまな国の人が交じり合い、交流を通じて多くの人と知り合えることだと考えるが、川越市はどの程度の国際化を望んでいるのだろうかと思った。

3—（2）外国籍市民が活躍できる機会の提供

- ①～③の事業を充実させたとして、川越は本当に外国籍市民にとって暮らしやすいまちになるのだろうか。今の事業をどう継続するかについて議論しているだけで、市として国際化をめざすという意気込みが感じられない。暮らしやすいまちのイメージを持って議論した方がいい。
- ここに記載されているような活動の主体が不明のため、市民の方は、どこに問い合わせをすればよいかわからないのである。外国籍市民国際人材ネットにしても、学校の先生が制度をどこまで理解しているのか疑問に思う。
- 小学校に外国籍の児童が増えており、子どもたちに支援が必要な状況である。人材ネットについても広報で周知し、制度を理解してもらいたい。

3—（3）外国籍市民の要望や意見の聴取

- 市民会議で要望なり意見なりが出されても、それが施策に反映されているのだろうか。会議自体が形骸化しているのでは。
- ⇒防災カードなど、外国籍市民会議で実現した取り組みもあるので、それなりに機能している。市民会議は長い委員をされている方もいらっしゃるので新しい人々も迎え入れて新陳代謝を図り、さらに意見が出るようにしたい。
- ・同じ外国籍市民でも障害者、高齢者などでも持つ意見は違うため、要望や意見は簡単にはまとまらない。お互いの暮らしやすいまちのイメージが一致しないからである。
- ・意識調査についても、意見を聞き、結果をまとめるだけとなっている。得た結果をどのように反映させるか、現在の問題とその解決方法を明示すべき。
- ・個人の意見はなかなか反映されないが、皆が抱える問題、皆の意見であったら反映されるものである。

議 事 の 経 過

- ・欄外に、問題解決への市の取り組みを載せるようにしたらどうか。

4—（1）姉妹・友好都市との交流事業の充実

- セーレム市、オッフエンバッハ市などの中学生交流団は若い人たちが海外に目を向ける機会づくりに役立っていると思う。中学生交流団の報告のレポートは見られないのか。
- ⇒国際文化交流課で冊子の形にしているが、顔写真など個人情報が入っているので公開は難しい。

4—（2）さまざまな地域との新たな交流の創出

- 今後の交流先で考えている国はどこか。
- ⇒特別に決まっている国はない。他市では姉妹都市をせっかく提携しても交流がほとんどないという事例も良く聞くため、まずは分野を特定した交流から進めていくことが大事だと考える。

VI 計画の指標について

- この計画として、もっと適切な指標があるのではないか。
- ⇒指標の設定については難しいところ。一度、事務局預かりにさせていただき、適切な指標の設定を行います。
- 日本の地域社会は、外国籍市民にとって入りにくいものだ。ごみの収集の仕方を地域社会の中で教えあうような活動が増えればと思う。町内会など、地域の国際化のように、数値で測れないところにも成果を残したい。
- 市の資料は、「国際化」という言葉の中で動いている印象がある。その中で、川越がどうするのか、というのがないから数値も目標も出せないと思った。
- 今はこの施策でも構わないが、次に計画を決める時には、高齢化、人口減少などの問題が絡み合うだろう。

（2）その他**【次回の会議日程について】**

- ・1月中旬に予定。事前に各委員あて連絡する。